

さいたま市山岳連盟主催「チームレスキュー講習会」

1. 期日 平成24年5月27日(日)
2. 場所 飯能市 天覧山 R.G

長田一樹 (大宮アルパインクラブ)

天覧山にて市岳連主催の「チームレスキュー講習会」に参加する。

講師はプロの上級登攀ガイドの佐藤博氏

さいたま市の山岳会から18名ほどが集まる。同日に加須にて県岳連のクライミングの大会があった為前回講習より人数は少ないようだが、その分内容は濃くなりそうだ。

岩場基部へ移動して、佐藤ガイドからの挨拶があり、1班あたり5、6人程で3班に分かれる。

最初の30分で結び方の基本を復習。エイトノット、フリクションヒッチ、ムンターヒッチ・ミュール固定。

120cm スリングでの簡易ハーネス・チェストの作り方やエイト環を使って支点を作りシングルロープでの二人同時懸垂の仕方等を教わる。その後岩場上部へ上がりよいよチームレスキューの講習開始

■ケガ人の「引き上げ」の講習。

要救助者を1/2で引き上げる(念の為、要救助者は補助ロープで確保)

- i ロープの末端をエイトノットで固定 *字数の関係で要救助者を要救と書かせていただきます。
- ii 要救までの距離の2倍以上のロープを出し、その最後をムンター・ミュールで支点へ固定
- iii フリクションノットでバックアップをとり、シングルロープでムンターヒッチにて要救の所へ懸垂
- iv 要救のメインロープにビナをかけ、自分が降りてきたロープをかける(要救より下側に居る事)
- v 自分が登るときに使うロープにフリクションノットを結び、バックアップをとる
- vi 要救に自分が降りてきたときのバックアップを移す(ヌンチャクよりもビナで)
- vii 自分で登りかえす(ロープを踏みながらだとフリクションノットを移動させ易い)
- viii 自分が登ってきたロープを支点の別ビナに入れ、その前のロープを引き上げる

*もし他に引き上げを手伝って貰える人が居るときは引き上げる方向を稜線方向に切り替えて手伝ってもらおう(2次事故防止及び良好な足場での引き上げ)

■ケガ人の「引き下げ」の講習

①流動振り分け懸垂(足に怪我が無い場合)

120cm スリングを確保器に通して、要救と救助者を連結して行う。デイジーチェーンやPASで連結した場合固定となり要救と救助者が下降途中で上下を入替える事が出来ないがスリングを通してやる場合は下に持って行ったりと移動が可能になる。その移動も体験する。

②背負い懸垂(足に怪我が有る場合)

60cm スリングを二本(120cmなら1本を真ん中で)確保器の所でガスヒッチにて固定、要救と救助者を

連結し要救の前に入って背負う。ポイントは、前屈みにならずに、相手を後ろに回す程度で感覚で、自分が相手を背負うのではなく、確保器に体重を掛け振り分け懸垂の縦（上下）版の様にする。

午後より、リード・セカンドビレイ時の自己脱出とトラバース時のフィックスロープ講習に入る。

■リード・セカンドビレイ時の自己脱出

トップ及びセカンド墜落で意識が無い又は動けないと想定

i 両手をフリーにする為 確保器の所で仮固定をする。

ii 確保器より要救側のロープにフリクションノットを結び、そこに荷重を移す。

iii 仮固定を解除し確保器をはずした後ムンターミュールにてロープを支点に固定して救助依頼

■トラバース時のフィックスロープの張り方

トップの人を最後の人がムンターヒッチでビレイ。途中で落ちたときのために、中間支点をとる。トップが着いたら、いっばいに張らない程度に残りのロープを引き上げ、ムンター・ミュール固定。中間で登る人は、ピナ二枚をかけて登るか、フリクションノットをセットして登る。最後の人は、トップがムンターヒッチでビレイして、中間支点を回収しながら登る。

<感想文>

未だ岩場での経験も乏しく、レスキュー講習も2回目で初心者なので、各動作がスムーズに出来るかと講習前には不安も多々ありましたが、佐藤ガイドの分かり易い実演や自分達が実演している時の的確なアドバイスや周りの方々のおかげで「チームレスキュー」について色々と学ぶことができました。

又佐藤ガイドから絡まないロープダウンの仕方や様々なアドバイスをいただきレスキュー以外の事も学べ、非常に密度の濃い一日でした。

バリエーションルートへ行くなら登る技術も大事だがレスキュー技術も同じ位に大事だと言われた事を肝に銘じてロープワーク等のレベルアップに日々精進しようと改めて思ったのと同時に参加した自分達だけの技術にしないで積極的に会へフィードバックしていこうと思いました。

講習へ参加させて下さった会関係者の方々、市岳連の皆様、一緒に参加した皆様、佐藤ガイドに本当に感謝致します。色々と有難うございました。